

審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	第6回山口市総合計画策定協議会
開催日時	令和4年10月6日(木曜日)15:00～17:00
開催場所	防長苑 2階 孔雀
公開・部分公開の区分	公開
出席者	進士正人委員、今村主税委員、藤井智佳子委員、橘康彦委員、佐藤真澄委員、桑原智恵委員、小山文彦委員、白石レイ委員、鈴木春菜委員、于佳男委員、永久弘之委員、戸田岸巖委員、重村奈津枝委員、小野哲委員、安光忠彦委員、粉川妙委員、田中貴光委員、手嶋郁夫委員、郡さやか委員
欠席者	坂本京子委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 （１）第５回山口市総合計画策定協議会以降の状況 （２）まちづくりの状況（教育・文化・スポーツ分野、産業・観光分野） （３）今後の予定 （４）桑原 智恵 委員からの話題提供 （５）小山 文彦 委員からの話題提供 （６）小野 哲 委員からの話題提供 （７）意見交換 4 今後の日程 5 閉会
内容	次第に基づき、以下のとおり進められた。 <u>1 開会</u> 【事務局】 （資料の確認、欠席委員についてのお知らせを行った。） <u>2 会長挨拶</u> 【会長】 　　よろしくお願いします。進士です。おかげさまで、この委員会も無事に第6回までできて、それぞれの課題について毎回、事務局から説明を受けながら、委員の先生方もそれぞれの自分の課題についてお話しいただけるということになっておりますが、あと残るはわずか2回になりました。いよいよ課題を我々の中でしっかり議論していくところに来ておりますので、ぜひ本日もよろしくお願いいたします。 　　また本日の協議会は17時終了というかたちで進めておりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

3 議事

【会長】

それでは次第に従いまして、議題に入らせていただきます。まず議事の1から3について、事務局から説明をよろしくお願いします。

(1)第5回山口市総合計画策定協議会以降の状況 ～ (3)今後の予定

【事務局】

(資料1「第6回山口市総合計画策定協議会 説明資料」について説明を行う。)

【会長】

ありがとうございました。いよいよ骨子案の話が出てきまして、個人的には非常にプレッシャーを感じているところでございますが、説明を聞いていただきまして、非常にコンパクトに時間を見ながら説明いただいたので、どこからでも構わないと思いますが、御質問等ございますでしょうか。

私から一つ教えてほしいのは、私も前からいろいろとお願いしている、山口大学の学生さんが湯田温泉によく行く理由は、仕事場としてお金を稼ぎに行く場でしかない。だから、できれば湯田温泉とか宮野とか、新山口とか、そこにお金を使いに行く場所が欲しいということを以前からお願いをされていて。では、どういう場所をつくればいいのかということが気になっていきますということを言ったら、今回、大学生にインターネットでアンケートをしているというお話を聞きまして。どんな結果が出るのか、半分怖くて半分楽しみなのですけど、どんな状況をお伺いしてよろしいですか。

【事務局】

大学生向けのアンケートにつきましては、今、各大学に依頼をさせていただいている状況なのですが、質問の中には、会長のおっしゃるように、普段、どこで遊んでいるか、また、どういうことをして遊んでいるのかというような質問項目を設けているところでございまして、これからアンケートの回答期間を経て、集計をしていきたいと思っております。

【会長】

非常に楽しみにしているところでございます。ほかにございませんか。

【A 委員】

今日の本題のところではなくて、前段の市議会の答弁についてコメントさせていただきたいのですが、前回の交通のところでは新駅の設定のお話がありまして、市議会の答弁でも誠実に回答されているというところで、私も前回、交通の話題提供でお話しさせていただきましたけれども、市が主体的に交通の整備に関わっていただくということで、すごくいい取組だなと思っております。ただ、一方でこの駅一つがよくなっても、やはり

交通はネットワークですので、この交通の駅だけではなくて、駅からその先への中園町周辺へのアクセスですとか、あるいはそのほかの駅のバリアフリーといったことも進めていただいて、ネットワークとして整備を進めていただくところを、ぜひ骨子に加えていただけるとありがたいなと思いました。

【会長】

何かありますか。よろしいですか。

【事務局】

はい。おっしゃるとおり、駅を中心としたまちづくりを進めていく中で、当然、駅の利便性向上でございましたり、バリアフリー化といったところにつきましても、しっかりと位置付けてまいりたいと考えているところでございます。

【会長】

はい、ありがとうございます。ほかに御意見ございませんか。どうぞ。

【B 委員】

交通の話が少し出ましたけれども、公共交通については色々と書かれていますが、自転車の活用については、あまりないように思ったのですが、このあたりも特に自転車道の整備について、自転車でも利用しやすい交通体系も作っていただきたいと思います。

【事務局】

自転車の活用につきましては、それぞれ個人所有されている自転車が走りやすい環境づくりということで、県も今年度、計画の見直しに着手されているということもありますので、県と市も連携しながらその辺りも検討していきたいと思っておりますし、また、シェアサイクルもですね、引き続き、中心市街地を中心にしっかりドミナントで配置していくようなかたちも今、検討が進んでおります。またしっかり位置づけさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

【B 委員】

自転車そのものの活用もですが、道路の方の整備、自転車で走りやすい道路というのもやはり連動するのにはとても大切な要素になっていると思いますので、よろしくお願いします。

【会長】

ほかにご覧いませんか。どうぞ。

【C 委員】

市議会の質問4のところで、山口県立大学の南キャンパスの跡地の活用ということで、バイトの子が、県大の子が多いので、近くに生鮮食品を買えるところがなくて、不便だっていう。学生の健康を支える大事な買い物をする所がないとか、あとまた娯楽がないとかですね、いろいろ聞きます。県大生は自転車ぐらいしか乗っていないので。でも、学生だけじゃなくて、やっぱり周りに住む人たちも、道の駅的なものでもいいですし、またどんな感じが分からないですけど、行政と、個人事業主がうまくマッチングして、面白いところに。あと藍染めの古い日本家屋、あれもまだ貸したいとおっしゃっているのに、空き家になっていたりするので、いいマッチングが出来たらなと願っております。

【会長】

ほかにございませんか。ここで何か聞いておきたいことがあれば。

【D 委員】

個人的な感想になるかもしれませんが、2ページ目の質問1の答弁1の一番最初の赤い線の「人間中心の地域社会の構築に向けて」のところですけど、先ほど大学生の娯楽施設とか、あと、そういう道路とかそういう社会基盤の整備は大事だと思うんですけど、それを、「人間中心の地域社会の構築」というふうに書かれると、今脱炭素とか気候変動とかそういうのもある中で、全部人間中心に考えた地域社会の構築というのは、怖いなと思いました。以上です。

【会長】

すみません、怖いというのは、どのような意味ですか。

【D 委員】

今の社会は、人間が暮らしやすいようにできているじゃないですか。道路とかも本当は環境にとったら、その道路は重たいもので、土とかそういった空気の循環とかも全部塞いでしまうというのも考えずに、道路をたくさん作って、車も資源をたくさん使うと思うんですけど、そういうものもどんどん使って、石油とかも掘ってという、人間中心に考えてきた結果が今のこういう地球環境の大きな変化を引き起こしているのかなと思うので、人間中心と考えるのは、これから先、それが持続可能な地域につながるのかという疑問があります。

【事務局】

ありがとうございます。少し表現を気をつけなくてはいけないと思いました。福祉的に優しいですとか、あるいは、車から歩行者空間に都市空間を取り戻すというような意味も込めていたのですが、人間のエゴイズムみたいな捉え方をさせてしまうようで

あれば、きちんと環境共生という部分も位置付けながら、計画を作っていきたいと思います。ありがとうございます。

【E 委員】

今の御指摘は結構大切ななと思っていて、私、実は、つい数日前にスイスから帰ってきたのですが、いろいろ驚くことがありまして、やはり、環境的な意識が非常にヨーロッパでは進んでいて。ちなみにコロナはほとんどもう過去のものになっていて何もなかったんですけども。今スイスで起こっている議論が、社会的なことと福祉的なこと、あるいは、人間のことと環境のことが結びついて議論されるようになっていて、私たちも社会問題であるとか、人間のことと環境のことは対立するものであるとか、あるいは、並行して進めていくものという考え方が、一般的かなと思うんですけども、ヨーロッパではもう統合して考えるようになってきています。例えば、住宅にしても、個人個人ばらばらで住むより、みんなで一緒に住んで共有できることがあった方が、エネルギーも少なくて済むし、そういう考え方になってきているので、それを別のものとして考えるのではなくて、一緒に考えていくような、そういう方針を地域で打ち出していくといいのかなと思いました。

【会長】

はい、ありがとうございます。

【F 委員】

私は、今、58歳です。大学の4年間を除くと、ずっとこの山口に住んでいるのですが、私が小さい頃に山口大学が出来ました。その当時は、田畑も存分にありまして、どこにいろんな施設を作るか、人口もまだまだ今程はありませんでしたし、山口市の将来に向けた大きな計画がいろいろとできていたときでした。しかしながら、今、毎年山口市の人口が少しずつ減少しているこの時代に、大内の農業試験場の跡地と宮野の県立大学の南キャンパス跡地、これだけの大規模な土地空間は、今後山口市のために何ができるのか、このなりゆきによっては、山口市は相当変わってくるんじゃないかと、そういう気がしております。20年30年先を考えたときに、私はその頃もう老人になっているところだろうと思いますが、その時の将来のためにこの大きなこれだけの土地、今までなかなか育ちきったまちの中からこれだけの空間を生み出すことが出来なかったわけですが、恐らく市民の皆さんの期待も大きいと思うところです。例えば、その方向性について市民の方に発信して、とにかく興味を持っていただくような姿勢を取らないと、ここ山口市がどんどん発展していくためには、この2つの大きな事業というのは、大きな夢と思っておりまして、果たして逆に行く方向もございますので、皆さんと一緒に考えていけたらと思うところです。

【会長】

ありがとうございます。私ども非常に興味がありますので、ぜひ一緒に考えさせていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

(4)桑原 智恵 委員からの話題提供

【会長】

それでは、議事の4番目の桑原委員からの話題提供をお願いしたいと思います。

【桑原委員】

山口文化協会理事として委員をさせていただきます、桑原智恵と申します。よろしくお願いいたします。今日は、山口文化協会の事務局である山口市文化交流課の職員さんにも手伝っていただいて話題提供させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、配付資料ですけれども、クリアファイルの中に赤れんがの歩みを記載したリーフレット、今週末に開催されます「地域伝統芸能全国大会」などのチラシを数点。また、山口文化協会の紹介を一枚にしたものを用意いたしました。御確認ください。では、始めたいと思います。

「文化」は、人が生きていくために最も大切な健康資源であるという観点から、この山口市に今も昔もある市民力についてお話ししたいと思います。

まず、目次を御覧ください。市内の文化施設、御存じの4施設について比較しました。続いて、市民力の証と題しまして3点。それから、昨年開館しました維新ホールについて。そして、私が理事として所属しております山口文化協会にみる山口市の文化度と特徴。そして、その文化協会と共にある私たちの市民会館のこれから。そして、今現在の山口市が文化的な面から課題として抱えているところの現状分析等についてお話しさせていただきますと思います。

最初の1ページを御覧ください。市内の主要4施設について、簡単に説明いたします。左上にございますのは、山口市民会館大ホールで、小・中学校の合同音楽会をはじめとして高校の合唱祭や成人式など、市民なら誰もが思い出の場所となっている市民会館ですけれども、昨年50周年を迎えました。左下の山口南総合センターは、スポーツ施設を併設している長寿社会の健康増進を図ることを目的とした南部の拠点でございますが、実は音響も良いことで知られております。右下のクリエイティブ・スペース赤れんがは、今年はリノベから30年を迎えまして、先ほどお手元にお配りしたリーフレットのようなことになるんですけれども、本当は、建物自体は104歳です。右上の山口情報芸術センター[YCAM]は、来年で20周年を迎えます。今や中央公園はすっかり市民の憩いの場となっていて、この週末は賑わうだろうと思われます。

次に2ページです。これらの主要4施設の規模や利用状況、実績について簡単に説明いたします。収容人数と使用料は、最も大きなホールの収容人数と、そのホールを平日を通して借用した場合の使用料です。稼働率は、2019年、コロナ前の自主事業を含む稼働率となっております。奇しくも、昨年から来年にかけて周年事業などの節目を相

次いで迎えることになっており、市民に愛される文化施設としての将来を、今、再び展望して管理・運営していくことが求められていると思われます。近年は、自治体が直接運営するのではなくて、指定管理者制度によって、民間の能力やノウハウを生かして、市民サービスの向上、経費の節減・縮減を図っているというところになります。こうしてみると、適度な価格と稼働率と言えそうです。

次のページを開いてください。先ほど、「人間中心の」という話がありましたけれども、やはり私も、今回お話ししたいのは「人の力」というところなのです。実は、日本で初めてヨーロッパの中世ルネッサンスの音楽を聞いたのは、大内義隆と大友宗麟、そして、織田信長と豊臣秀吉ということになっております。サビエルは、1549年に来航し、九州上陸後に京都、山口、平戸などを巡って布教を開始し、1551年に大内義隆に謁見した際に、鍵盤楽器マニコルディオを贈呈しております。左にありますのは、サビエル城に展示されている絵を参考に、当時の民衆や宣教師のもとへ集っている様子を描いたものです。そして今から470年前である1552年のクリスマスに周防山口で歌ミサ、聖歌つきのミサなのですが、これが捧げられたという史実が残っており、この記録をもって山口が西洋音楽発祥の地とする最古の史実ということになっておりまして、現在は、「日本のクリスマスは山口から」として、「山口光誕祭」ほか、市を挙げた市民活動が定着していることになります。私も主宰している合唱団が、西洋音楽発祥の地ということで、西洋の合唱音楽の歴史をたどった演奏会を30年くらいやっておりました。

そして、続いて、赤れんがです。これは皆さんよく御存じだと思います。私は、この赤れんがの開館の直前に、事業内容を方向づける委員会に関わってきました。大正に建築された県立図書館の書庫の取壊しが決定して8年間、アーティストを中心にして、一般市民200名が「赤れんがの会」で保存活動をしました。そして、商工を中心とした「彩りのあるまちづくり協議会」を市が設置し、再生や活動に向けて動いたことで、新たな施設として誕生したのです。1992年に開館し、熱意ある元市職員が館長として積極的に発信し、すぐさま翌年から「山口世界音楽祭」を4回にわたって開催されました。ドイツをテーマとした1995年に、マニコルディオを改良したと言われるチェンバロを、大内氏の家紋とサビエル家の紋章を施して市が製作し、以降、中世ルネッサンスの古楽の演奏家に注目され、特色ある企画で古都山口を象徴する活動を続けているといったところ です。

続いて、比較的、記憶にも新しいのが、山口情報芸術センター[YCAM]です。1990年に山口県立中央高校の移転が決定した2年後に、市は「やまぐち情報文化都市基本計画」を策定し、「(仮称)文化交流プラザ」として構想されました。8年後に基本設計が示されるや否や、経済効果のある大規模ホール建設を求めて商工会議所が意見書を提出しました。私は、「ソフト研究会」というところに所属しまして、現在の伊藤市長たちと一緒に、市民への情報文化の浸透を図るということをお手伝いさせていただいたのですが、以降シンポジウムや公開公聴会、井戸端会議や協議会などの場で賛否両論の議論を重ね、10年後ついに「中園文化施設基本設計」が確定します。実施設計が完了したのは2001年で、同時に、正式名称が決定され、建設工事に着手しますが、その

半年後の市長選で大きな争点となり、工事は中断します。そして、翌2002年まで市民100名による「見直し市民委員会」を8回開催しました。その後、企画運営会議を経て、2003年11月1日に開館しています。

こうしてみると、山口には、昔も今も市民力があると私は考えてしまいます。異教徒の文化を自ら受け入れた大内時代、古き良き建築物を残して未来へつなごうとした昭和、工事を止めてまで市民と熱く13年間も語り合った平成。YCAMは開館翌年に、皆さんも覚えておられるように台風被害で無残な姿となったのですが、その責任を問う事態にも陥りながらも、たちまち来館者は10万人を超えました。今では、休日の中央公園は、羨ましくなるような風景が広がり、若い家族連れで賑わい、図書館とともに市民に愛される当たり前の日常の風景となったということ、これこそが「市民力」の証だと考えています。

続きまして、昨年開館した「KDDI維新ホール」についてです。「山口市産業交流拠点施設」は、新山口駅直結の複合施設です。最大2,000席、可変型のホールである「KDDI維新ホール」は、従前の文化施設とは違い、単なる文化施設ではないので、成り立ちは異なるのですけれども、本日、チラシを配布していますように、今週末に開催される「地域伝統芸能全国大会」のメイン会場となっています。コワーキングスペースもある「Megriba(メグリバ)」は、先日、御紹介がありましたとおり、山口商工会議所等と連携しながら出会いや仕事の創出を図るといい、聞けば、会員利用も順調とのことでした。新たな交流と賑わいを創出する拠点として期待されるものと思われます。また、注目の「アカデミーハウス」は、人材育成が目的で、1年間共同生活しながら、週末は哲学的思考で地域の課題解決に取り組むプログラムを実施するという、山口にしては大胆な試みだと私は思うのですが、産業分野はもちろんのこと、文化面でも活躍する人材と定住促進への循環を期待したいと熱望しています。この施設の新しい取組ということについては、もっと多くの市民が知って、市が後押しをしてくれている力というものを意識すべきだろうと考えます。

続きまして、山口文化協会です。昭和からずっと写真を掲載しておりますが、先ほどお配りした団体紹介の資料も御覧になりながらお聞きいただければと思います。県都である我が山口市ですけれども、まちなみも歴史そのものを感じることができて、暮らしの中にすでに文化が息づいていることがやはり特徴であろうと思います。山口文化協会は、昭和44年の創設以来、様々なジャンルの先人たちが脈々とその技や心を受け継いで現在に至っていると私は思っています。

次のページを御覧ください。ぞろりと揃っております演目は、2019年に創立50周年を迎えるまでの創作舞台を列挙しております。山口文化協会が今このようにあるのは、50年もの長い間、周年ごとに創作公演を繰り返し、そのコラボレートする力で培った「他を認める眼差し」と「結びあう力」によって各々の活動をも強靱にした結果だと思っています。これは、どんな舞台関係者に聞いても、近県他市にはない、本当に類例のない特徴だと評価をいただいています。

続いて、次のページを御覧ください。「私たちの市民会館」としました。市民会館のこ

れからです。建設の機運とともに山口文化協会が創設されたとされておりますが、文化協会が先なのか、市民会館が先なのか分からないくらい、ここは運動した、市民の文化の集いがあると私は考えます。市民に親しまれ慈しまれてきた市民会館は、「私たちの」と呼ぶに相応しいと感じますが、50年を過ぎましたので、現在までに、客席の取換、控室の増設や耐震、入口を1階へ変更したり、舞台床を張り替えたり、必要に応じて改修しながら運営してきました。今後は、ホールとは別の事務所棟を含む施設全体の利活用の見直しや、EV付設など完全なバリアフリー化、機材の最新化についても検討が必要ではないかと思っております。

ところが、私も驚いたのです。中国新聞の記事を御覧ください。先月の市長の定例会見で建替か改修かを1年程度で判断すると表明されました。利用者へのアンケートや学識者との検討など、市民の声を反映した方向性を示したいとしてあります。何より重要なのは、利用者の現状ももちろんですが、さらには新たな利用増加の可能性を検討することではないかと思いますが、歴史や文化を感じる山口市の特徴を創出しながらも愛される「私たちの会館」にできるかどうかが肝心なところだと考えます。

さて、次のページです。山口市の文化の課題はなにかと、私なりに考えてみました。この図は、私の頭の中の概念をかたちにしたものです。一番下に「市民文化」があるとする、YCAMを中心とした洗練された「情報文化」、新たに整備されたKDDI維新ホールが「産業交流」拠点であると。ただし、「情報文化」と「市民文化」は接点がありますけれども、まだ「産業交流」と「市民文化」は接点ないという感覚で私は感じています。「情報文化都市」「産業交流拠点」を掲げたこの20年の山口市の都市計画は、2つの施設の建設によって、独自の高い振興ビジョンに則った政策を見事に実現できたのではないかと思います。県都としては、県立文化施設が少ない山口市ですが、市民ひとりひとりに県内他市には見られない、生活の中の文化を脈々と受け継ぎながら、崇高なプライドが市民の方の中に潜んでいるという、特別な文化都市であり続けるのは、大内文化をはじめとして、その時代に生きた人々が受け継いでいる土壌ということではないかと思いますし、多くの文化人を送り出してきて、それを市民が享受してきたまちの歴史というものを愛して、誇りとしているからではないかと思えます。その市民力は、今までに数えきれない文化の集いを繰り返し、また、まちづくりの上でも重要な起点を記してきたと思います。

市が推進してくださっている総合的な施策には、私たちの日常生活そのものが文化であることを、一方で、創造性や質の高い視点に立った牽引力は、行政が担うものであることを十分に反映して、お互いに敬意を持った未来につなぐ、そんな力をこれから育んでいくということが大事ではないかと感じています。

最後のページをお開きください。現在、問題とされていることを記載しています。どんな社会もどんな地域も一様に担い手不足を訴えるのですけれども、100才生きてしまうかもしれない私たちもいつかは去って、次世代が自分たちの世界を創るわけです。心配なのは、今現在の若い彼らが余暇の少ない人生を送っていることです。たしかに文化は、時代とともに多様化していて、昭和の文化とはまったく違う状況ですが、趣味と

することができるどころか、生活にまみれて必死に生きているような気がしてなりません。市民文化とは、日常のごく自然な、いつでも手の届く生活そのもののことであると思います。すなわち、「文化は健康資源」。長い年月をかけて山口市民自らが文化的な生活のために実現したまちづくりの力は、中央公園が20年で育んだあの市民の風景が何よりの証だと思います。あの時、13年間も熱く語り尽くした山口市民の郷土愛や誇り、連帯感が市民のまちづくりへの参加を生み、やがて市民ひとりひとりの健やかな日常生活に溶け込んでいく。そのためには、社会全体が余暇を享受する仕組みを応援すること、中高年のリカレント教育やプロボノを推進し、生涯ともに学ぶ姿勢を支えること。「市民力」を引き出すための市の共働態勢、この3点が問われるのだと改めて感じています。

山口市は、他市に先んじて「情報文化」や「産業交流」を掲げて先鋭な拠点を築きました。そして、その役割を果たそうとしています。ですが、これらを市民の日常にいかに関環できるかが肝要なのであって、これからが課題と感じます。

私は、合唱連盟の事務局を長く続け、現在は事務局長ですが、今年8月に文化庁から、ついに「中学校部活動の地域移行」に関する提言が提出され、4年後までに改革をせよということが求められております。今こそ、「こどもたちとの文化による共働」が次世代の日常を健やかにするものとして、教育委員会と手を取り合って、文化協会をはじめとした新たなプロジェクトをつくり、早急に取り組むべきかと。取り組むこと自体がまずあって、山口県の中で先進していくということがよいのではないかと考えています。

解決というかたちにはならないのですが、こうしたことが、長年、赤れんがやYCAMに関わり、そして、今までずっと私が山口市で生きてきた中で考えたことでございます。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございます。御質問等ありますでしょうか。

すみません、私は、2001年に宇部に來たので、YCAMをつくるのにこれだけ揉めたというのは、初めて聞いたのですけれど。これは、やはり、長州の人はきちんと議論することが好きなのですかね。議論好きという印象がありますけれど。

【桑原委員】

あまり政治的なというような感覚ではなかったように私は感じています。どうでしょうか。

【会長】

皆さんそれぞれの立場でやっぱり議論がしっかりされてこういうかたちになったということですね。

よろしいですか。どうぞ。

【G委員】

私は普段、文化などに触れていない人間なのですが、とても勉強になりました。ありがとうございました。

私は今、大学で働いているのですが、私が働いている大学は、桑原委員にもお世話になっていますが、山口芸術短期大学と山口学芸大学と「芸」が付きます。私は、今の大学で働いて十数年なのですが、昔は芸術の学部が活発だったんだということをよく言われるのですが、今は芸術だと食べていけないというところがあって、学生数がどんどん減ってきて、もう一度、大学として芸術とはなんだろうとか、文化とはなんだろうとか、アートという言葉について再定義をしていかないと、今の時代の文化、今の時代の芸術というのは、音楽だけじゃない、技術だけじゃないというようなところで、すごく行き詰まっていると思うので、今の話を聞きながら、これから先、デジタルなども含めて、もう一度文化とは何だろうかと考えていけるきっかけになったらいいなと思いました。ありがとうございました。

【会長】

ほかによろしいでしょうか。どうぞ。

【D委員】

私は、今、大学4年生で、先月YCAMで映画を4本くらい見たのですが、それも大学4年生でほとんど授業がなくて時間があるからであって、興味がなかったとか知らなかったというのものもあるかもしれないのですが、大学1、2年生のときは、結構授業が入っているので、そういうのを見る時間がなかったり、土日にバイトを入れている子を見る時間もないだろうし、先ほどもおっしゃったと思うのですが、時間がないというのは結構あるのかなと思います。でも、こういう文化に触れることから、例えば学生だったら研究にもいい影響があると思うので、大人の働き方とか、学生の例えば一生懸命勉強してバイトもしないと大学に通えないとか学費面とかそういったいろんなものがつながっているのかなと思いました。

【会長】

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。桑原委員、ありがとうございました。

概ね1時間経過をいたしましたので、ここで、休憩を挟ませていただきたいと思います。

(5)小山 文彦 委員からの話題提供

【会長】

それでは始めたいと思います。小山委員、よろしくお願いいたします。

【小山委員】

レノファ山口の小山です。どうぞよろしくお願いします。

「レノファ山口FC、専用スタジアムでJ1の夢」ということで、レノファ山口FCのサッカー

一を御覧になった方もいらっしゃるかもしれないけれども、少しだけ、御案内を。

今、60メートルのシュートが決まったシーンだったのですが、(機器の接触不良で)肝心なところが見えなかったのですが、田中渉選手は非常に才能のある選手で、仙台からレンタルしており、完全にレノファに所属しているわけではないので、彼をどうやってこのまま引き留めるかということは、我々の課題になっています。あとは、佐藤謙介選手、高井和馬選手など、魅力的な選手が揃っています。

そこで、樽募金を始めました。ちょうど山口市の方にですね、樽募金をやってみたらいいのではと言っていて、ロープの輪っかと樽とで「わたる募金」というダジャレが効いていまして、田中渉選手を残したいという思いを込めています。

現在のレノファ山口の成績は、J2リーグで15位ということで、下位に甘んじているわけですが、9月は負けなしで調子が良くて、10月に入って下関市で開催した盛岡戦で引き分けでしたけれども、そういう順位で戦っているということでもあります。まわりを見ると、上は町田、秋田、金沢。下は水戸、栃木、甲府、ということで、地域を挙げて戦っているような感じになっています。

Jリーグのしくみなのですが、レノファ山口は、J2リーグに所属しています。J2は、全22チームありまして、ホーム&アウェイで42試合あります。山口県のホームで21試合、山口県以外の21都道府県に遠征しています。ですから、ほかの県の半分ぐらいに行くというなかたちになりまして、私もすべての試合に帯同しています。そして、J2の上位2、ないし3チームがJ1、上のカテゴリーに昇格して、下位の2チームがJ3に降格します。降格を我々は非常に恐れているのですが、今年は、残留が確定しましたので、来期もJ2で戦えるという状況になっています。クラブ別の売上、これはスポンサーからの収入がメインなのですが、5億円から30億円と、とても開きがあるクラブが同じカテゴリーで戦っています。ちなみに、レノファは、11億円くらいです。

レノファが目指しているJ1リーグは、全18チームで、日本で一番強いクラブチームがあります。ホーム&アウェイで34試合と、ルヴァンカップや天皇杯があり、そういった試合も含めると、40試合弱の試合をするのですが、上位4チームが、アジアチャンピオンズリーグに出場し、下位2ないし3チームがJ2に降格します。クラブ別の売上が20億円から70億円ということで、決まりはなく勝てば上がれるのですが、経済規模としても20億円ぐらいないとなかなかJ1に入ることすら出来ないというような状況でございます。

日本サッカーのピラミッドは、プロがJ1、J2、J3と3段階ありまして、トータルで60チーム。これ以上増やさないということが昨年決まりましたので、それ以外はアマチュアクラブということになりますが、JFLとか地域リーグの中にも、プロ選手を契約で雇用して、もうほとんどプロというチームもいくつもあります。皆さんJリーグに入りたいけれども入れない、J3からJ2に上がりたいけれどもなかなか上がれないという中、レノファは運が良く、うまく上がれているというところになります。

レノファ山口FCの現在地ですが、JFLのときに1.5億円の売上げがあったのが、J3に上がって3.8億円、J2になるとさらに、企業もあるのですが、選手もあります

し、8.8億円から、今、そうですね、J2の2年目のときに10億円だったのが、コロナ禍もありましたけれども、経営があまり良くなかったので、成長していない、失われた5年間ということになっています。規模としては、J2の平均3分の2ぐらい。J3の平均よりは、2倍くらいあるので、J2にいて然るべきなのかなと思います。ほかのクラブがどうなのかといいますと、1番左に書いてある12というのは、全国で12位ということなので、広島は、今、J1で3位、天皇杯やルヴァンカップでも優勝しそうな勢いなので、予算の割にはすごくいい成績を残しているのですけれども、それでもやっぱり35億円という事業規模です。同じ中国地方で岡山は、昨年の実績は16億円ぐらいなのですが、経営者が言うには、岡山で19億円ぐらいに伸びそうだとのことです。そこからたった4つ下なのですが、山口まで下がると、急に金額も下がります。だから岡山ぐらいまでのトップ30チームが、現状、J1を目指していて、そこから落ちると、急にですね、なかなか昇格は難しくて、残留争いをするようになります。ちなみに、山口の一つに書いてある北九州は、山口よりも事業規模が大きいですが、昨年、残念ながらJ3に落ちてしまいましたので、そういった当確線上ににいるというのは、まさにそのとおりだなという状況です。

クラブ規模ですけども、日本のトップが70億円、川崎フロンターレだとか横浜F・マリノスだとかってということなのですが、世界はトップが1,000億円ぐらいで、レノファは10億円ですから、100倍ぐらいの事業規模で同じ数の選手を雇って運営しているという状況にあります。ヨーロッパチャンピオンズリーグという世界最高峰のリーグがあるので、それに出るためには、大体、1,500億ぐらいの規模にならないと難しいということで、ヨーロッパと日本の差はかなり開いているというような状況でございます。

現実に戻りまして、地方クラブの環境比較ということで、いわゆる田舎にあるクラブの環境比較をしますと、山口県という環境は、なかなか苦しい中で頑張っているという状況です。スタジアムは陸上競技場ですし、交通の便は苦しいですし、駐車場もなく、維新公園内にある駐車場は使わせてもらえないですし。平均入場者数はなんとか3,000人、今年で3,500人弱くらいありますけれども、これをよくしていかなければいけないという状況です。U18というのは、ユース、高校生年代なのですが、今年、かなり躍進してくれたのですが、リーグとしては県リーグにいますので、これはですね、中国プリンスリーグというところまで上げていかなければいけない。高校生もカテゴリーで戦っているのに、上のカテゴリーに上げていかないと、いい選手をとったりだとか、いい環境で練習したりとか、強い相手と戦えないとか、そういう状況ですので、こうしたことを改善すると、より強くなって皆さんの期待にも応えていけるのかなと思っています。

サッカー専用スタジアムについてですけども、隣の北九州市は、立派な専用スタジアムができています。小倉駅から歩いて行けるようなところがあるので、本当に羨ましい限りなのですが、一方で、山口は、県の維新公園にある、維新みらいふスタジアムという、陸上競技場を使っています。もともとサッカーは、陸上競技場の中にある芝生を使ってやっていたので、成り立ちがそうなのですが、今は、いろいろなところが専用スタジアムを使っていて、この埼玉スタジアム2002というのがワールドカップの

ときに作られた素晴らしいサッカー専用スタジアムなのですから、ピッチのそばにスタンドがあって、すごくサッカーが見やすい環境になっているということですね。陸上競技場ではなくて、サッカー専用スタジアムに変えているところがどんどん増えています。この右側がマジョルカスタジアムで、陸上競技場からサッカー専用スタジアムにすることで、ファンの楽しみが増えていくような状況ですね。何が違うかといいますと、陸上競技場だとトラックがあったりその他施設があったりと、箱自体は大きいですが、サッカーをダイナミックに観戦しづらいというところで、世の流れはサッカー専用スタジアムに傾いているという状況です。サッカー競技も日本でもかなり普及してきましたので、サッカー専用スタジアムを持てるように徐々になってきているということです。ピッチが近くて選手を近くに感じることが出来ます。佐賀県鳥栖市にあります駅前不動産スタジアムだとか、北九州市のミクニワールドスタジアムだとか、もう本当に、ピッチを覗き込むようなかたちで、手を伸ばしたら選手に触れそうな距離で、ピッチから7メートルぐらいの幅でスタンドがあります。観客同士とかチームとの一体感がつくりやすいということですね。ドイツのドルトムントスタジアムは、以前、香川選手がいたところですが、8万人くらいが入れるスタジアムで、ホーム応援側は壁のようになって、コレオグラフィックというのですが、黒と黄色のボードを持ってエンブレムを描いているというシーンですね。埼玉スタジアムなんかは迫力がありますし、柏スタジアムなんかは、古いのですが、とてもピッチとスタンドが近いという魅力があります。

最近では、金沢でいよいよサッカー場の整備を始められまして、県としては80万人くらいの県なのですが、金沢市としては40万人くらいですので、必要十分なサッカー専用スタジアムをつくっています。建設費は75億円で、周辺の開発にプラス50億円というところでやられています。とても悔しいので、クラウドファンディングでプレートに自分の名前を入れられるのですが、ふるさと納税で5万円寄付して入れてもらうようにしました。

近隣のJクラブとスタジアムなのですが、レノファは維新みらいふスタジアムを借りていますので、J2だけ陸上競技場。北九州はJ3だけ専用スタジアム。福岡と鳥栖はJ1で専用スタジアム。長崎は今作っているのが、来年か再来年から新スタジアムが使える。大分は陸上競技場なのですが、4万人が入るワールドカップを開催したスタジアムで、愛媛はJ3で陸上競技場なので我々と同じ境遇なのですが、今治にも専用スタジアムをつくられていて、広島は今改修していく。ちなみに、鳥取には2つ専用スタジアムがありますので、もはや陸上競技場でやっているのは、我々だけという状況にほぼなっています。今現在、多くの地方クラブが様々な方法で魅力あるサッカー専用スタジアム計画を進めていますので、山口もこれに取り残されないようにしたいと考えています。

どんなスタジアムがいいのかといいますと、南北に配置されたりだとか、屋根があるだとか、席がどれぐらいか、トイレがきれいだとか、駐車場が多いだとか、いろんな方法があると思います。どこにいるかどうかっていうと、どこがいいかという話ですと、新幹線の駅、鉄道の駅、空港の近く、高速道路のインターチェンジの近くで、スタジアムと駐

車場のスペースがしっかりとれるところというのがあると思うのですが、どこでもよいのかもしれないとも思っています。ホームタウンは全県ですので、どこかでサッカー専用スタジアムができるのであれば、我々は山口県に住んでいる方に、より迫力のあるプレーを見せることができるのかなと思っています。

将来のレノファ山口FCなのですけれども、やはりですね、トップ18チームに名前を並べて、J1所属でいたい。日本で、上から18番以内にサッカーが盛んで、経済効果があったり、皆さんが認識していただける知名ということで、J1に入りたいなと思っています。専用スタジアムに毎試合15,000人が足を運んでいただけて、年間30万人がサッカーを観戦してくれる未来。対戦相手は、サンフレッチェ広島、川崎フロンターレ、横浜Fマリノス、鹿島アントラーズ、浦和レッズ、名古屋グランパスのような有名チームが山口に来て、サポーターとして入っていく。こういう姿を、私自身は目指してやっています。売上、営業収入としては、20億から30億円ぐらいと思っていて、成長していきたいと考えております。以上です。

【会長】

ありがとうございます。機器のトラブルで申し訳ございません。

御質問ございませんでしょうか。もう、この夢はずっと聞かせていただいています。ぜひそこはまた御検討いただければと思います。

ほかにありますでしょうか。よろしいですか。どうぞ。

【E 委員】

先ほどのサッカー施設の話もスタジアムの話も出て、非常にいい施設が山口市にできると、とてもいいのかなと思うんですけれども、それと同時に、私は全然サッカーはよく分からなくて、ぼやっと聞いてもらえるのがいいかなと思います。

成績がよくなるとか、J1とかJ2とかって、まだそこまで到達出来ない方もたくさんいて、それも大切だけれども、それと同時に、例えば広島みたいに広島カープのファンはカープが勝とうが負けようがいつもすごく応援していて、そのカープの話題がいつもお好み焼き屋さんで起こっていて、そして、どこに行っても皆がそれを共通の話題にしてそこで話せるとか、それがスポーツが地域にあることの価値かなと思うのですけれども、そういう点でいくと、スタジアムなどが整備されると同時に、先ほどの、部活動の地域移行という話がありましたけれども、子どもたちがレノファのサッカーとか、地域の人達が素人だけどちょっとやってみるとか。そこでルールを覚えていって、親御さんやおじいちゃんおばあちゃんも分かるようになって、そういう人たちが結果的にどんどんレノファを見に行くとか。あるいは地域の人同士で仲良くなるきっかけになる。そんな未来が描けるといいのかなと思って。プロとアマチュアで全然考え方が違うと思うんですけれども、その連携とか予定がもしあれば、教えていただきたいなと思いました。

【小山委員】

ありがとうございます。今、言われた姿と言うのは、本当に目指していきたいところで、私どももスクールとか、子供世代のユース育成だとかっていうところもやっています。なかなか市民の方に対してプレーする機会の提供というのは難しいんですけども、こういう事業は、山口市さん含め、いろんなところと一緒に進めているので、そういったところの説明が今日はできませんでしたが、本当に今おっしゃったような、まちの中にしっかり根付いているっていう、そうならないとなかなか強くもなれないので、両面でやっていきたいなと思います。

【会長】

他によろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

それでは、小野委員よろしく願いいたします。最後の話題提供です。

(6)小野 哲 委員からの話題提供

【小野委員】

山口銀行の小野でございます。よろしくお願いします。私の本協議会の担当分野は、産業、雇用ということでございますので、「山口市の産業・雇用の現状と今後の方向性」というテーマで話題を提供させていただきます。

本日の流れでございます。前半は、人口、就労者数、企業立地の方向と、山口の現状について記載しています。後半では、産業振興、雇用創出に向けた方向性、それから、山口フィナンシャルグループの役割ということについて、提言を述べさせていただきます。

まず、山口市の2020年の人口は、約19万4,000人。2015年比で、ほぼ横ばいの状態です。全体の人口は、減少ということでございますが、社会増減に注目すると、15年から20年、この5年間で、1,660名の転入超過となっており、県内の市町では最大となっております。2つのグラフを掲げておりますが、これは県下最大の都市である下関市との比較です。左側のグラフを見ますと、下関市は、転入超過が50代・60代の一部であることに対して、山口市は20代を除き、全ての年代で転入増加となっております。20歳未満の転入超過は、山口市に高校や大学、専門学校が充実していることが要因と考えられます。このため、大学、専門学校を卒業した後の働く場所の確保、あるいは拡大をすることが人口増加に向けた一つの課題であると考えております。また、右側のグラフでは、2050年では、山口市の人口の推定値が、173,000人とされておりますが、下関市と逆転して、県下で一番、名実ともにナンバーワンとなることが推計されております。

次に、山口市の年齢別就業者数を2015年と2020年で比較したものです。15歳から19歳は同程度でございますが、20歳から24歳の就業者数は増加をしております。前のページでは、20代は転出超過と申し上げましたが、このように良い兆しも出ております。これは山口市の行政と産学の関係者の御尽力の賜物だと考えております。私の

知り合いの建設業の経営者によると、約10年ぐらい前は、県内の大卒の新卒者が全く採用できずに、九州あるいは四国に出向いて採用活動をしていたとのことで、これはこれで、転入者の増加につながることはあるのですが、県内での知名度を上げるために地道な努力を重ねた結果、今年4月の新入社員は8名中3名、来年4月に予定されている内定者は、15名中6名が県内出身者の採用が出来たとおっしゃっていました。この経営者さんは、採用後、必ず親御さんのところに挨拶に行き、子供さんをお預かりしますと、よろしくお願いしますというような、こういった地道な努力も重ねられています。私どもも多くのお客様とお付き合いをさせていただいておりますが、市内には、素晴らしい中堅・中小企業がたくさんあります。一方で、人材の不足というのも顕著でございます。このような企業と学生をつなげる役割を私ども銀行も行政の皆さんと一緒に促進できればと考えております。

企業立地の動向でございます。こちらは、昨年の日経新聞に掲載されておりますものですが、2021年度の上半期の新設法人数の増加率で、山口県はトップでした。山口県内では、山口市は、増加数では2位、増加率では1位となっております。報道では、IT関連の法人設立が増えているとされております。新設法人数が増加している要因として、山口市は、法人設立のために必要な関係諸機関を丁寧に紹介されている点があるかと思います。当行にも、市の担当者の方が、新しく設立された法人の社長さんと伴われて、口座開設の相談にお見えになっているといったケースもございます。

それでは、後半の提言部分に移らせていただきます。ここでは、人口増加への施策として、山口市の強みを生かした雇用創出について述べさせていただきます。皆さん御認識のとおり、コロナ禍でテレワークが浸透し、法人の地方移転が増加傾向にございます。このデータは、関東エリアにおけるアンケート結果ですが、まず、上半分のグラフは、企業が地方移転時に候補地を考える条件のランキング。下のグラフは、逆に、自治体側が、企業がオフィス移転を考えるとときに重視しているだろうと予想している条件のランキングです。御覧のように、企業側が望んでいる条件と、自治体側が予想している条件、その重要度にずれがあるということです。皆さんに着目していただきたいのは、企業側が重視する項目の中に、交通の利便性、あるいは、自然災害の発生・被災リスクの低さ、社員の労働環境の向上、生活の生活環境の改善など、山口市の強みを生かせる項目が上位にランクしている点でございます。

次のページからは、小郡都市核、それと、山口都市核について、産業集積の方向性について述べさせていただきます。まずは、小郡都市核です。強みは、交通アクセスのよさ、山口県内への営業活動等のしやすさですが、課題は、進出ニーズに対して、オフィス物件が不足している。そういったことが、エリアの住民を生かした産業集積の方向性として、新山口駅周辺のエリアのオフィススペースを拡充させる。そういったことによって、IT産業のように、若い世代が働きたいと思う、成長産業の誘致につなげることが必要かと思います。既に成果を上げていらっしゃると思いますが、サテライトオフィスの誘致。また、県内各地へのアクセスのよさを生かし、本社、グループの本社、あるいは山口県本部といったものの集約を促進して、それをこのエリアに誘致するといったものが考え

られるのではないかと思います。

続きまして、山口都市核です。山口都市核の強みは、社員の労働環境、生活環境向上に関する条件が整っていることではないかと思います。特に、都市型温泉である湯田温泉の存在や、行政機能が集積していること、充実した教育機関、あるいは、豊富な歴史、文化、観光資源。ほかの都市に比べて、優位にあるものが整っていると考えています。これらの強みを生かせる産業集積の方向性としまして、社員及び家族の住みやすさ、子育てのしやすさを差別化したもので、人、あるいは企業の進出を促進していく。あるいは、山口市を生活拠点としたテレワークの推進、さらには、情報・文化関連企業の誘致、地元大学等と連携して、時代のトレンドに適合した人材育成、そういったものができるのではないかと考えております。

続きまして、雇用創出の方向性で、関係機関との連携でございますが、大学、専門学校が充実している山口市におきましては、学生起業のポテンシャルも高いと考えております。私どもも、山口大学と連携した取組を行っております。また、右の表のように、UIJターンですね。移住希望地ランキングにおいても山口県は15位前後にあることから、そういったことを踏まえた施策を打っていくことも重要ではないかと考えています。

最後になりますけれども、これは、私どもの役割というところで、説明というか、宣伝をしたいということでございます。時間もございますので、これについては、私どもの地域の豊かな未来を共創するということを経営の基軸として、様々な課題に取り組んでおります。内容については資料のほうを御一読いただければと思います。どうもありがとうございました。

【会長】

いろいろと御配慮いただきましてありがとうございました。本日のお話について御質問でございますでしょうか。

やはり、山口市から転出するのは20～29歳っていうのは、若い人が、なかなか仕事場を見つけることが出来ず、出てしまうというのは、我々もここに来ている3つの大学が今度一緒になって地域人材育成事業というのをしようとしているところなのですが、狙いは文系の人材にDX的な登用をつけて、ここに役に立つような人を出したいなと思ってる所なのです。もう少し転出超過を解消できるといいのかなと思っているのですが。

【小野委員】

学生さんとしても、大企業、あるいは、東京大阪といったところへ就職する指向性がやはり強いと思います。特に、山口大学の経済学部は歴史もありますので、皆さんが全国あるいは世界で活躍されている。俺も将来は、というような思いがあるのかな。そういう中でも、地元には先ほど申しましたような、しっかりやってらっしゃる企業もたくさんありますので、我々としては、いかにそうした企業さんと学生をリンクさせていくか。紹介して結びつけていくかというのが我々の課題でもあると感じています。

【会長】

実際に新しく法人を作る人が増えているというのは、またすごく夢がありますね。

【小野委員】

これはすごく嬉しいことで、起業家マインドというか。以前に比べたら、我々の世代は、そこで一生勤め上げるというパターンでしたが、今は、一旦は就職しても、何年かしたら自分でノウハウを作って起業したい。起業ということに対するハードルが下がってきているのかなという気はいたします。

【会長】

山口大学にも「Fun Fun Salon」というものを整備して、YMFGから来ていただきまして、山口大学の学生が相談できるようにというので、そんなにたくさん相談する人がいるのかしらと思ったら、結構相談があるという話を聞いてですね。すごいなと思って聞いていました。

ほかに御質問等ございませんか。どうぞ。

【B 委員】

貴重なお話ありがとうございました。銀行さんは、非常に、地域の企業に対する影響が大きいかなと思っているんですけども、銀行が企業に融資する、ESG投資といったところが今、随分と注目されてきていると思うんですけども、その辺りの山口銀行さんの方針があるようでしたら、教えていただきたいと思います。

【小野委員】

そうですね。ESG投資というのは、私どもも全体の枠を決めて、何年間でこれだけという、今数字を持っていませんが、目標を決めてやっております。直近では、「グリーンローン」ということで、環境に配慮した設備投資に対するプロジェクトについて、外部評価機関の評価を取得して融資をするという。株式会社丸久さんが設備を新たに、CO2排出量の少ないかたちに変えて、早めに取り組むことで環境負荷を低減させていこう取組で、先月プレスリリースさせていただいたんですが、そういった取組は積極的にやっております。

【B 委員】

ありがとうございます。山口市がゼロカーボンシティ宣言をされて、銀行さんがそういったかたちで企業さんの取組を後押しされるということは非常に大事なところかなと思っていますので、引き続き力を入れていただけると有難いと思います。ありがとうございました。

【会長】

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。どうぞ。

【E 委員】

これは、一個人としての希望なんですけれども、この小郡と山口の都市核それぞれで、小郡のほうはサテライトで山口のほうは大学との連携というのが書いてありますが、実は結構、新山口駅を使うことが多くて、ぜひ大学との連携を新山口駅の小郡ともしてほしい。

新山口駅にゲストや先生たちをお迎えしたり、企業の方をお迎えしたりすることも多いですし、待ち時間も長いので、そういう学生もすごく使えますし、いいなあとも思っていてあの辺りをウロウロすることが多くて。

【小野委員】

南北通路も出来て、そういった面で、南北の通りもすごくよくなって。KDDI維新ホールもできて。これは私よりも山口市さんの方が詳しいですけれども、小郡の旧商店街のところの再生、まだまだ目白押しだと思います。もちろんほかにもございますので、時間と企業との関係もあると思いますけども。そういったことも我々もぜひ応援していきたいと考えています。

【E 委員】

本学が山口市吉田にあるので、山口市の方はそちらを基本的に考えられると思うんですけど、私たち宇部から来ていて。意外と新山口って宇部と山口の間で、何かあれば会いやすかったりとか、意外と使う場所ではあるので。ぜひ御検討いただけると。

【小野委員】

いいですね。私も個人的には、新山口駅から歩いて行けるところにできたらいいなみたいなことを勝手に思っているんですけども。そういった大きなビジョンも含めてしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

【会長】

他によろしいでしょうか。

それでは本日、3件のお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

(7) 意見交換

【会長】

それでは、議事7番目の意見交換に入りたいと思います。

これまで事務局からの説明や委員から話題提供がありました。全体を通しての御質問や後期基本計画の策定に向けた御意見、御提言などはございませんでしょうか。

本日の話を聞いてすごく思うのは、やはり山口市では、文化という切り口。文化というのは本当に、いわゆるアートの文化もあれば、スポーツの文化もあるっていうのは、すごく感じるところでして、そこが非常にうまくこれをどううまく残していくのか、どうこれをつないでいくのかというのは、これから山口市が生き残れる一つのキーワードなのかなと個人的には今日のお話聞いて思ったところです。私もずっと宇部にいますけど、そういう意味では山口市が非常に羨ましいなといつも思ってるので、そこをどううまくつないでいくかというのは、課題なのかなと思ってるところでございます。この辺りをこれから徐々にまとめてですね、素案を求めていくというかたちになってこようと思いますので、ぜひその辺を山口市のほうで御判断いただきながら続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

他に御意見等ございますでしょうか。ここで言い残したことございませんか。

【B 委員】

総合計画策定協議会に出ておきながら恐縮なのですが、この協議会自体は一年で結論を出すというところではあるのですが、なかなかこういう、ひとつのまちをつくるというのは非常に難しいと言うか、私もこの協議会で改めて難しさを感じているところです。私たちが、例えば20年後30年後にどういった社会に住んでいたいのかというのを明確にしないと、やっぱりまちづくりをやっていく上で、5年後だと、今の基盤がベースになった社会というのが見えているわけですけども、その積み重ねで本当にいいのかなと思っていて、先ほど D 委員からもあったように、環境にしっかり配慮しながら、私たちが暮らしやすい社会を作っていくというところで、今の都市構造であるとかいろんな産業であるとか文化であるとか、いろんな側面があるんですけども、私たちはどう社会に臨んでいくか、どの社会だと幸せに暮らしていけるのかっていうのを、本当に長い視点で考えて、30年後であるとか50年後であるとか、もしかすると私達は生きていないかもしれないんですけども、その20年後、あるいは50年後ぐらいに、どういった山口市が未来の子ども達に渡せるのかというのをどこかで議論した方がいいのではないかなというふうに思っています。これは一年で終わるような話では当然ないと思いますし、5年かけてやるのか10年かけてやるのかというのはあると思うんですけども、そういった山口市の長期的な未来像というのをある程度明確にしながら、5年ぐらい計画づくりをやっていくいうところは求められるんじゃないかなと今日感じたところです。一つの提案としては、これから協議会が一年で解散するのではなくて、できればもう少し長い視点で、人は入れ替わりながらかもしれないですけども、議論しながら、進めていくのが本当はいいんじゃないかなと感じたところです。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございました。どうぞ。

【H 委員】

実は同じようなことを私も今日話したところだったんです。私は、伊藤市長とYCAMのソフト研究会に所属したときに出会いました。今日ちょうど、ソフト研究会の当時のメンバーの方と話をしたとこで、やはり施設を建築するということにも、こういったソフト研究会もそうなんですけど、来年、20周年を迎えるYCAMのことをそのソフト研究会であったメンバーが、10年後、20年後に、生きていればということでもあるんですけども、時代が変遷する中で、果たして、その役割はちゃんと出来ているのかということを協議して、いろんなことを研究、検討すべきではないかと。その場で終わるものではないというようなことを、本当に話したばかりだったんです。だから、私はまだ伊藤市長とも話したいと思っていますし、今回こういう機会を与えていただいて、私に関わってきたいろんなことをまとめることも出来ましたし、これは本当に貴重なことでしたし、それを皆様にお話しすることが出来たのですが、多くの方たちと、また、この協議会の方とも、またいろんなところでお会いをするのではなくて、やはり、ここで責任を持って、そういう検討を繰り返していくということはすごく大事なことでないかと、私も同じことを思っていました。

【会長】

はい、ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

またいずれ、腹を割った話をする時間が欲しいなという意見ではないかなと思いつながら聞いておりました。

はい。それでは本日、予定しているものはこれで終了でございます。これで第6回の山口総合計画策定協議会を終了したいと思います。それでは事務局に進行をお返しいたします。

4 今後の日程

【事務局】

それでは、今後の日程につきまして御案内いたします。次回、第7回策定協議会につきましては、10月27日木曜日午後3時から防長苑にて開催させていただきます。回りの協議会は、30分ほど拡大してお時間をいただければと思っておりますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。また改めて御案内をさせていただきます。

また本日、時間の制約上、御発言できなかった御意見につきましては、意見書として提出いただければと思っております。お願いします。

5 閉会

【事務局】

長時間にわたりまして、ありがとうございます。後半戦も皆様方、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

会議資料	・資料1 第6回山口市総合計画策定協議会 説明資料 ・資料2 桑原 智恵 委員提供資料 ※ ・資料3 小山 文彦 委員提供資料 ※ ・資料4 小野 哲 委員提供資料 ※ ・資料5 委員名簿 ・資料6 配席図 ・資料7 意見書 ※資料2～資料4については、<u>協議会委員のみへの配布</u>とします。
問い合わせ先	総合政策部 企画経営課 TEL 083-934-2747